



親鸞 生涯と至宝～ 特別展を開催して 講師 上杉智英氏

京都国立博物館主任研究員

龍谷大学文学研究科真宗学専攻修了 文学博士

親鸞展の出口に展示したものは

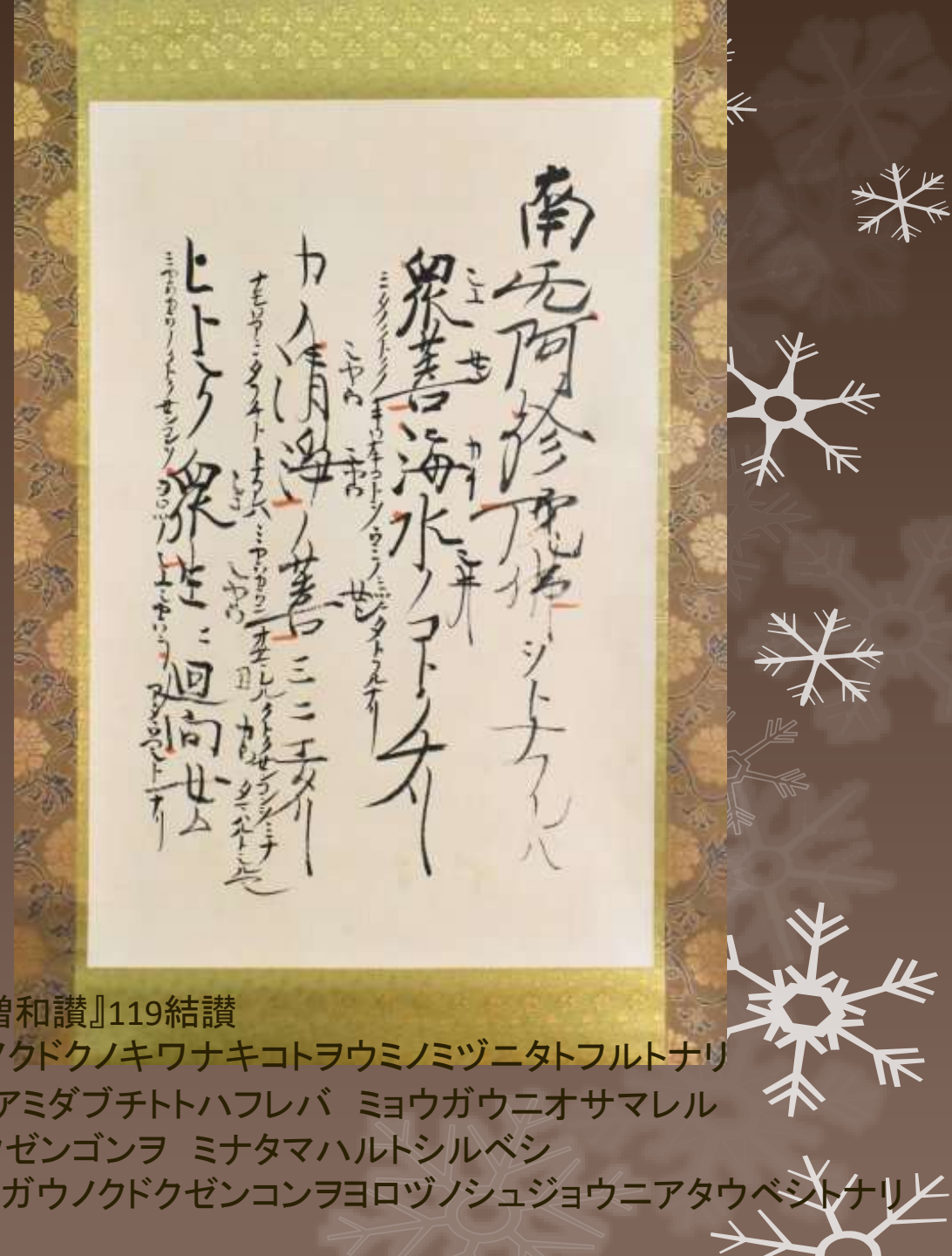
2024年11月20日 真宗学概論A2

第8回 受講生と私からの感謝コメント

龍谷大学文学部真宗学科教授 鍋島 直樹

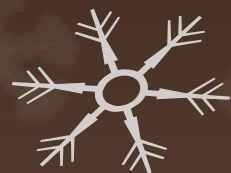


- 上杉智英(ともふさ)さんは、龍谷大学文学部真宗学科を卒業し、大学院文学研究科真宗学専攻文学修士を取得。「『集諸経礼懺儀』の文献学的研究」により文学博士を取得した。
- 上杉さんは文学部真宗学科の在学時に、三帖和讃についての鍋島の講義を受講してくれた。
- 私は親鸞聖人の和讃をみせて、受講生に尋ねた。「なぜ二行目から一字さがっていますか」と。皆は沈黙した。それで「親鸞聖人は歌がとっても好きだった。その証が七五調の書き方なのです。この様式を何と呼びますか？」と私は尋ねた。すると、上杉さんが「今様です」とこたえてくれた。私は上杉さんをほめたたえた。 <https://itgakko.com/tokubetujugyou/imayou75.html>
- 上杉さんは、2023年春、京都国立博物館主任研究員として親鸞展を開催した。彼の計り知れない努力に敬服する。上杉さんは、多くの展示物の最後に何を展示するかを悩んだ。桜の屏風で終わってはならない。そうだ！親鸞聖人が最も大切にしていたものを最後に展示しよう。親鸞聖人が後世に伝えたかったもの、それが親鸞直筆の「南無阿弥陀仏」だった。私はこの上杉さんの展示に取り組む姿勢を心から誇りに思う。親鸞聖人だったら、きっとそうなさったに違いない。
- 南無阿弥陀仏は、私の力量を頼りにして、思い計らって称える念仏ではない。雑行をすてて、すべてを弥陀に任せる念仏である。どうしようも私をたすけようと思ってくださる弥陀の本願である。南無阿弥陀仏は、阿弥陀如来が「私にまかせて、あなたを必ず救う」とあなたによびかける「声なき声」である。



『高僧和讃』119結讃

ミダノクドクノキワナキコトヲウミノミヅニタフルトナリ
ナムアマダブチトハフレバ ミヨウガウニオサマレル
クドクゼンゴンヲ ミナタマハルトシルベシ
ミヨウガウノクドクゼンゴンヲヨロヅノシュジョウニアタウベシトナリ



大無量壽壽樂
 設我得佛光明有能照量
 下至不照百千億那由他諸
 佛國者不取正覺
 起發佛壽命有能度眾
 至百千億那由他劫者不取
 正覺
 康元之曆十月七日
 吉之

返教後善言
 世尊我之心願志方
 尤等此如願壽靈出
 我後修善其功德則
 能廣修種種功德悲
 願諸善願過無空過者
 能令滿三功德合世海
 慈光則靈照我身也
 个四歲吉之

歸命盡十方無量如來

大無量壽壽樂
 設我得佛十方眾生至心稱樂
 依我願力至十念若不生者
 不取正覺唯除無量阿僧祇劫
 止
 設得佛國中人不生在定
 聚心至誠度者不取正覺
 慈光則靈照我身也
 个四歲吉之

南无阿彌陀佛

又言
 仰得此善集安
 眷園福祿五福趣
 亞趨同慶朋昇道
 无窮極易為先
 人其國不中道言
 德之所幸
 康元之曆十月七日
 吉之

真宗の地味と~~地~~の意味が
よく理解できた。

展覧会にて「真宗」のいたしに
気づきました。

私の知っている親鸞の知識は、まだ
薄く、もっと知りたいと思えました。

展覧会に行きます。

親鸞聖人の導き出した阿彌陀仏
の救いのおたすを分析し、考察を
していてとても楽しかった。

展覧会の背景が知られ、貴重な
時間でした。

当時、見に行、本際と今とは知識も感じも違
状態と展示物を見ることができ、すこ感動しました。
注・上杉さんの自行錯誤がみえたと面白かった。

宗重と快長が同じうごいてた



法然について、知ることができて
良かったです。

非常に話が面白くて、あの講義の二限目でした。

このような形で同級生と講義の出来事関係の
話を面白く思いました(笑)

次に展示会をするとしてテ-又に
おきたいものはありますか??

娘はカワイイですね。おサンマのウチの娘に似てるのかもかもです。

いつもは石がの先生の、いつもは
石がの千愛さんが、お次は新島さん、櫻井さん
が、ア-ゴ。

美術館の空間作りの大切さがわかった。
親鸞聖人に会ったようにその技術はすごいと
思った。

仏教関係の展示としては地味な感じで、おどろかされた
親鸞の教が仏教美術館として聞いてお祈りした

展示の際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして
お祈りの際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして
お祈りの際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして
お祈りの際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして
お祈りの際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして

お祈りの際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして
お祈りの際、お氣と休んでお祈りしてお祈りして

昨年、私が見に行。た親鸞展のこを思い出した。
あの頃は邦子も勉強不足で思。たおれも展示が地
味なし正直感いいわが、今回お話をうかが。この地味な
シンプルが 真実の持ち味であることが、至何分な
く見れば展示の配置に意図があることが、
一目でわかった。- 一目でわかったと思。

他ではなかなか聞くことができない
ような貴重な お話を聞いて
よかったです。

相の講義では、親鸞の生涯について
往生の際は、死ぬ間際からあてるのでは
音声が念仏と鳴っているが心配なという話
聞いて面白かったです。

真実 親鸞聖人の教えは、
派手さはないけれど温かさ
感じることのできるなと思いました。

展示をうかがった裏話を聞いて、配置に意図がある
ことを知ることができた。自分も何かの授業の課題で
親鸞展を見たいのを覚えているので、話を聞くことが
できました。

講演は、たまたま、展示が説明を
書いているので、そのお話を聞くと、
知っていることが多かった。

親鸞展に行きみたいと思いました

法然展、私が行けたいの
行く前に上杉さんのお話を聞いて
です。お話をうかがいました。



500年前の作品を見て土形さんが感じている審美的
にさけてどう感じたかなども、直接話して、
とて有意義な時間だと思いました。

浄土宗では臨終行儀が求められ、聖徳太子が特に教ないといいますが、
浄土宗と浄土真宗に違いがあるというのを初めて知りました。

正確には親鸞展の展示があまりにも多いと思いましたが、その理由が知りたかった。

今回の話を聞いて仏教美術が正しい理由が念仏への執着から
必要ないという浄土真宗の特色だと感じた。

名号本尊がとてモ印象的のこりまいた。
六字名号十字の中での字体が
独特でした。

関東大震災をきっかけに親鸞自筆のものが残っているという
のはすごいことだと思いました。

自筆の存在はそういえば忘れていた。
僕が親鸞展で特に印象に残っているものが大音の
名画で、20分程呆か止まったくらい気に入ったのですが、それ
についての裏話がなくて残念。
800年前のものを私たちが今見ている、という点でも多く不思議な
事だ。阿彌陀仏の真像、描きかた無限に改めて想像しつづける。

学術学は無い、真実のことが知れました。

この親鸞展〜開催のきっかけ、とて
大きな苦学のおかげで見ることができたもので
私も見に行き、おびと貴重な体験であった
と改めて感じました。



親鸞の教えは地味だと聞いて驚いた。
確かに念仏だけだと、地味という表現が
おもしろかった。

親鸞にフイエ学んだ。親鸞生涯
の生涯
850年記念博物館での上杉氏の苦勞を
感じた。京都国立博物館に行ってみようと思った。

800年前の物を今目にしているというワードにして感動を
受けた。たしかに今のこころという存在がこころでこれ
先人が大事にし、伝えようとしていた事があるからこころ
この史料がこころに残っている。凄まじいことだ
なと感じました。

親鸞の事は100%見ると作、石展覧会。
絶対、行くぞ。

本日京都国立博物館にて法然展を見に行く予定です。
先生の増あつた展示を見られます。

展示室の最後の部屋は、今日まで、
気に入っていたので、意図や考えまで
わかる空間だと感じました。800年前の声は
今も届けるという、大切にしていくと、感じました。

法然さんと親鸞さんの臨終の際の
違いが面白かった。また、展示の裏側の
話も聞いて楽しく要講できました。

上杉智英氏の声がとても聞き取りやすく
聞いていてリラックスできるし、興味を
持つことができて良かったですと感じました。



親鸞展を担当した方の貴重な話を聞くことができて良かったです。

今日の講義は、いつもとは違うものでした。上杉さんが、どのような思いで博物館を作ったのか知れたので良かったです。貝に行きたいと思いました。

親鸞展に熱量が込められていることがわかりました。普段はあまり出展しきない中で、たぐさんの展覧を今回これていることから、訪れた人はより親鸞聖人について理解深められると思います。

あれだけ多い展示物の1つ1つに熱い思いがこわれて展示されていたことがわかりました。改めて親鸞展を見に行くことができて良かったです。

聖徳太子立像が鎌倉時代からそのまま残っているのはすごいなと思いました。色はそんなにあざやかではないなと思いました。

親鸞の展示は地味であるが地味であるが故に衆生に寄り添うという魅力を出していると感じておく腑に落ちました。

教行信証の書き直しが鮮明に残っていることがすごいなと思いました。直筆というのがよくわかります。

どのようなものを展示するか、展示物をどのように見せるのかなど、内部の方でなければ知り得ない、貴重な話という感じがしました。

浄土真宗では来迎を描かないことで親鸞の往生の考え、教えを表しているのだと思った。真宗は他の宗派と違って華やかさが少ないことが特徴であることが分かった。





親鸞展を3回程拝見して、展示物の物さや
 珍しい物の取り扱いに驚いたことを思い出した。
 上杉さんのお陰で人生でこの機会にしか見ることが
 できないものに出会えたのだなと感じ、有難いなと思った。
 仏教美術にこだわると展示が揺るってしまうということも
 はっきりと聞くことができた。改めて浄土真宗の本質を感じられた。

800年前の物や教えは、後世に3人かいたからこそ
 残ってきたのだという最後におっしゃられたことには心動かされ
 ました。私の生家にも親鸞聖人直筆の書があったと伝えられ
 ていたのですが、空襲で焼失したとのこと。残念に思っています。

● 親鸞展の貴重な展示物をこ解読 いたいた
 滅多に見られないものを見た上に講師の解説があったことで
 非常に興味深いものになった。「地味さ」が浄土真宗のおこ
 尊き 後人は先人を訪ねる」といた言葉が印象深かったです。

● 親鸞が実際に書いたものであった。その当時の史料
 ほど見られ、それその詳しい内容について知るこ
 とができて良かった。上杉さんのトークスタイルも高く
 非常に聞きやすかった。声も良かった。

● 今も浄土真宗は臨終の際に何か行われるのでしょうか？

● 親鸞の著述や生涯などを博物館での展示物を見ながら
 改めて親鸞について学びを深めることができて、良かったです。

● 先陣に書道の方が来てくださった。7演明
 が非常にやる気があって、浄土真宗外聖後太子
 を強く信仰していることが今日初めて知りました。
 へ。

● 博物館の「語り手」から視点を語っていたのは、
 大変貴重なと思った。特に最後、実際に歩いてみたが、二点ど
 したのはどのような理由があるのか気になっていた。
 しかし、後述への思いがあったというのはお伽の物語であった。

● 親鸞や西本願寺の展示は、2-3週間
 ごとに入れ替わりのペースで見ることが多い。
 色々と展示の幅が広がっている。色々と展示を
 見たいと願うと根本にどうやって見たいか
 上杉さん是非ありかたを教えてくださいました

ブリスバーおいしいよ(^▽^)
受講生のあなたの感想に
上杉さんはとっても喜んでいました
「勇気づけられた」って。

親鸞展は行、下二日間の滞在は、下
次行く機会もあふれたい。

法然と在来浄土正見を行きたい
と思ひました。

親鸞展、自分で行、下二日間の
滞在は、下二日間の滞在は、

今回上杉さんの話を聞いて、浄土真宗と
浄土の近く何処かあること知りました。
私は義務教育以外浄土真宗の学校に行き、
何処か言ひのた(笑)

親鸞聖人の修行の時、時の経つ、来迎の種が
折れかたないが、浄土の教えが反映して、
面白く思ひました。
浄土の教えは、浄土の教え、浄土の
浄土の教え、浄土の

浄土展も行きたくなりました。

私に親鸞展、浄土の浄土の浄土の浄土の
浄土の浄土の浄土の浄土の浄土の浄土の
浄土の浄土の浄土の浄土の浄土の浄土の

今回の講義で浄土真宗の展示物の
本と浄土の、展示を行う側の裏話なども
聞け、とてもおもしろく、勉強になった。
話も上手で、聞かなくてはいけなかった。



- <https://youtu.be/KBpP9c22Hqk?si=iPZ8lw6lCaMr8Psk>
- 上杉智英ともふささんの「史上最大の親鸞展」の記者会見をみたいひとは、
- 上のYOUTUBEをどうか見てください！
- 京都国立博物館様 そして、上杉智英さん、私も何度も見ましたよ～。
- 心から感謝を込めて 鍋島直樹

